

ホノルル市長杯第 50 回全日本青少年英語弁論大会

12 月 12 日、高校生と大学生が競う伝統ある英語弁論大会が、大阪中央区・松下 IMP ホールで開催されました。この大会は、ECC が主催し、米国ハワイ州ホノルル市の後援を得て、1971 年第 1 回大会をスタートし、以来半世紀を経て、今回第 50 回を迎えて、幕を閉じます。昨年はコロナ禍により順延、本年も半年遅れとなり、関係者全員が待ちに待った開催で、特別の思いが籠った感慨深い最後の大会となりました。

大会のメインテーマは、「輝ける未来のために私のできること」[I'm Making a Brighter Future]。202 名の高校生、33 名の大学生が各地から予選に参加し、スピーチ原稿と録音テープによる予選審査で各 8 名が選抜され、会場での決勝戦となりました。国内在学中の学生であれば、国籍を問わない、帰国子女 OK の参加条件の為、アジア中心に留学生も目立ち、英語力は全員ネイティブレベルに驚きました。従って採点の差は、スピーチ内容と話術、如何に聴衆（審査員）の興味を早く惹きつけ、印象を残すかになります。

いずれ劣らぬ高レベルのコンテストの中から、高校生の部は九州地区代表、韓国籍の高さんが優勝しました。

「夢で終わらせないために」[Not Just a Dreamer]と題したスピーチは、"Imagine all the people sharing all the world. Imagine all the people living life in peace. (全ての人が世界を分け合っているのを、平和に暮らしているのを想像してごらん) で始まり、一ージョンレノンが歌うイマジンの世界は私の夢ですが、まだ夢に過ぎない。多様性は素晴らしいと同時に人を苦しめてもいます。差別は世界的に迅速な解決が必要な問題です。私は二つの解決策を提案します。一つ目、人を組織単位で見ないこと。二つ目、たった一つの情報に惑わされないこと。これらを実行出来れば、差別のない世界は本物になります。"

大ヒットしたジョンレノンのイマジンの歌詞、メロディーを思い出し、間とテンポ、強弱の巧みな話術に乗せられ、説得力あるスピーチ内容に心を動かされる納得の優勝でした。

大学生の部は、関東地区代表の福留舞さんが見事優勝しました。

「ペンは心の代弁者」[The Pen is the Tongue of the Mind]

“書くこと。それは、私達の心と身体健康維持と改善に効果的な行為である。しかしながら、現代の若者は正しく美しい文章表現が苦手になっていること、また一方で、高齢者の中には、家族に負担をかけまいと自らの悩み、思いを言うことなく抱え込む人も存在することが問題視されている。そこで、私は手紙という敢えてアナログな手段によって、これらの問題を解決し私達の未来を明るくする方法を提案したい。”

流暢な英語、医学生故の難解な語彙に理解が追い付かない部分が多くありましたが、落ち着いた語り口で説得力があり、とても興味深いテーマでした。デジタル社会の中で、手軽に断片的なコミュニケーションが日常化していますが、豊かな情緒、思考力向上の為に”書くこと“が大切との意見に共感しました。

スピーチを披露した 16 名の英語力は抜群で、話すスピードが速く、手元の原稿を追いながらの集中力が求められました。スピーチの内容は、日常の身近な話題から現在の社会が抱える問題に結び付け、解決策を提案する構成でしたが、いずれも関心を払うテーマでした。優劣を決める審査員には酷な役目であったと想像しますが、結果は、高校生、大学生共に上位 1～3 位総て女性が入賞、改めて女性の活躍に目を眩りました。

大会終了後、関係者により 50 年を振り返り、田崎審査委員長への謝恩の式を開催。

50 年前、未だ小さな塾経営者であった故山口勇氏と田崎清忠先生の出会い、そして若者への熱い思いで意気投合し、そこからスタートしたのが高校生・大学生を対象にした英語弁論大会「ホノルル市長杯」でした。

「将来の国際社会に於ける主役は青少年にあることを思い、その青少年に日本と世界が直面する諸問題に真っ向からメスを入れ、検討し、打開策を考える機会を提供し、加えて語学力の向上を促進する。そしてその語学力の向上こそが国際間の理解と親善を深め、世界平和達成への唯一無二の途である」

この 50 年間で 6,000 名の高校生と 2,500 名の大学生が大会に参加し、将来に向けての希望と自信を手にして社会へ飛び立っている。

50 回大会を務めあげた田崎清忠審査委員長と志半ばで早逝した故山口勇理事長、そして支えた大西学院長、その遺志を継いだ実弟の山口勝美理事長に心から敬意と賞賛、感謝を申し上げます。

今回、田崎先生（91 歳）にお供する機会を頂き、心地よい緊張感と深い感慨と大きな感動に浸りました。加えて ECC の理念とホノルル市長杯取り組みに、私達の「国際人をめざす会」活動が重なり、勇気づけられました。

（山田清實・記）